

漁況予報 い わ し

第208号

【2018年7～8月漁期】

※1 平年：過去5年平均

※2 被鱗体長：口先から尾ビレの付け根までの長さ

= 概況 =

【マイワシ】

主要定置網におけるマイワシ総漁獲量は、5月は25トンと前年(23トン)並で平年※¹(14トン)を大きく上回りました。6月は168トン(速報値)で、前年(128トン)および平年(96トン)を上回りました。

まき網は、東京湾側で餌イワシとして漁獲が継続しており、相模湾では餌イワシとして断続的にカタクチイワシやウルメイワシに混じり漁獲がありました。

魚体は、5月は被鱗体長※²(以下同)10-12cmの早生まれ群(前年12月生まれ)主体でしたが、6月に入り遅生まれ群(本年2-3月生まれ)の同9-10cmの魚も混じるようになってきました。

【カタクチイワシ】

主要定置網におけるカタクチイワシ総漁獲量は、5月は80トンで、前年(214トン)及び平年(470トン)を大きく下回りました。続く6月も83トン(速報値)で、前年(287トン)及び平年(413トン)を大きく下回りました。5-6月は盛漁期なのですが今年は非常に低調に推移しました。

魚体は、9-11cmの小型成魚主体でした。

佐島地区のまき網は餌イワシとして断続的に漁獲しました。

【シラス】

4月は地域差があったものの、全体では平年並の漁獲量だった相模湾のシラス漁ですが、5月に入っても西高東低の漁模様が続き、全体では(標本船データより推定)は前年および平年並でした(前年比1.0倍、平年比1.0倍)。

6月に入ると、東側で平年並、江の島以西で平年を下回る漁獲水準となり、全体では豊漁だった前年を下回りました(前年比0.4倍、平年比0.7倍)。

結局、春漁(3-6月)としては、前年および平年並でした(前年比1.0倍、平年比0.9倍)。

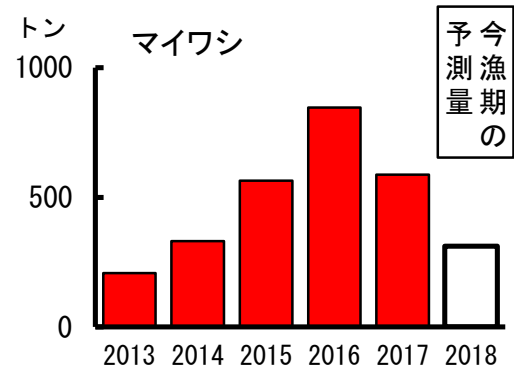
= 予 報 =

過去5年の7・8月漁期の漁獲量と
今漁期の予測量

【マイワシ】

今漁期は、2018年生まれの小羽マイワシ（10～14cm）が漁獲の主体となるでしょう。

今漁期の漁獲量は、春季のマシラスの漁獲状況から、前年を下回る約 311 トンと予測されます。

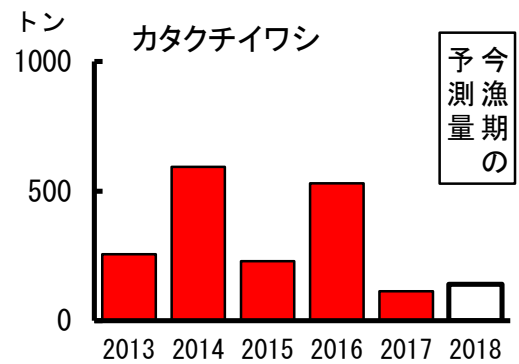


※グラフ縦軸：主要定置網+まき網

【カタクチイワシ】

今漁期は、前半は小型成魚（9～10cm）、後半は未成魚（6～8cm）が漁獲の主体となるでしょう。

今漁期の漁獲量は、前年をやや上回る約 140 トンと予測されます。

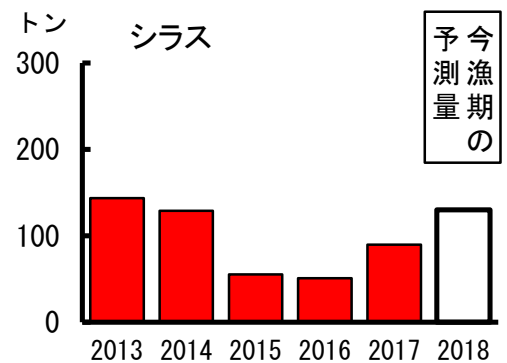


※グラフ縦軸：主要定置網+まき網

【シラス】

今漁期は、6月以降に生まれたカタクチシラスが漁獲の主体となるでしょう。

今漁期の漁獲量は、6月の相模湾周辺のカタクチイワシ卵分布状況から、前年を上回る約 130 トンと予測されます。



神奈川県水産技術センター企画資源部
三浦市三崎町城ヶ島 (046)882-2313